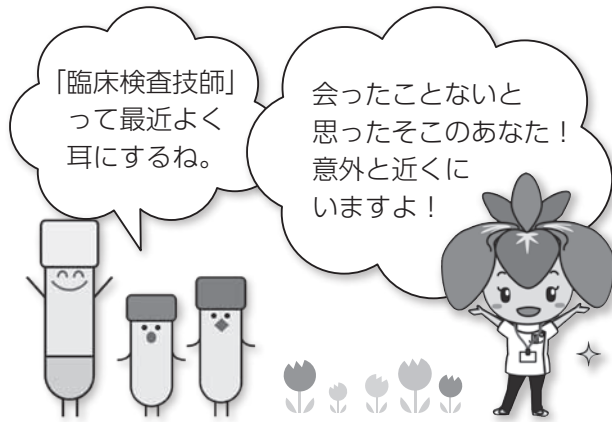


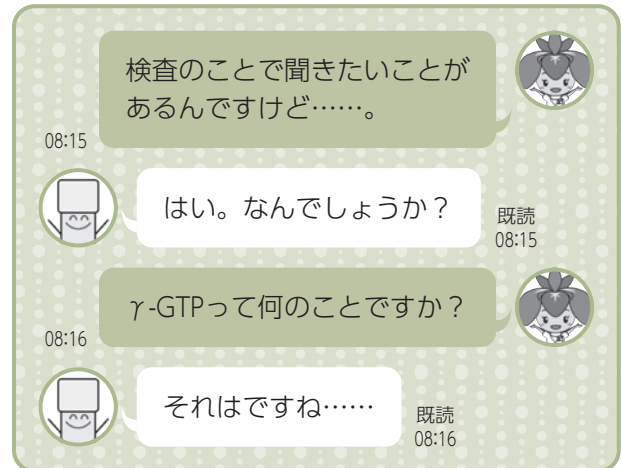


ここにいます「臨床検査技師」



あなたの健康を色々な検査でサポート

中央採血室で採血業務を、生理検査室で心電図検査など、患者さんと向き合って検査をしています。患者さんから採取した血液で、腎臓・肝臓などの機能、貧血の有無、血液型の検査を行っているのも臨床検査技師です。また、手術で摘出された臓器から、がん診断の補助や、^{かくたん}喀痰・尿から菌の検出、おなじみのインフルエンザの検査も行っています。



碧南の歴史へのいざない

問 文化財課内
市史資料調査室
☎(41) 4566

No.81 岡本八右衛門(2)

大浜村議会による北部分村議題が否決されると、分村運動の関係者は直接、郡や県の上層部役人、政治家に働きかけ分村の実現を目指しました。しかし、強力な陳情活動を推し進めるには、多額の活動費が必要としました。陳情活動に奔走したのは鶴ヶ崎の岡本坂太郎と久沓の市古春平で、多額の費用を支えたのが、^{かたはち}岡本八右衛門でした。『岡本八右エ門の時代』加藤良平著)

市古春平は、久沓の漢方医市古良平の長男として生まれています。33歳で東京へ遊学すると、自由民権論の洗礼を受け、帰郷後は自由党員となりました。知立の民権家内藤魯一^{ろいち}と交流し、自由主義の普及に活躍しています。

岡本八右衛門の活動資金に支えられた市古春平は、郡役所のある知立や名古屋に長期間滞在し、郡や県の上層部役人、政治家から分村の了承を取り付けることに成功しました。

明治16年(1883)11月28日、大浜村の天王以北の978戸、4458人が北大浜村として分村独立をしました。この年に棚尾村の枝郷であった東山、西山も飛地で不便であったことから、棚尾村から177戸、797人が北棚尾村として分村独立をしています。

この北大浜村と北棚尾村は合併を経て、明治25年(1892)から、油ヶ淵の排水路であり、町の繁栄を支える運河の名にちなみ「新川」が町の名前となりました。岡本八右衛門の^{かたはち}八は、大型帆船を三隻所有し、南洋、満州、北海道へ就航させた貿易商ですが、安城ヶ原や北海道由仁町の原野開拓においても目覚ましい成果をあげていくことになります。△新川運河河口の新川港

